



第53回 粉体工学に関する講演討論会を大阪で開催

- 【日時】令和元年10月7日(月) 午前10時00分～午後6時30分
- 【場所】ホテル日航大阪(〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-3-3)
- 【主催】公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
- 【企画】粉体技術談話会
- 【後援】ホソカワミクロン株式会社

去る10月7日(月)に、「第53回 粉体工学に関する講演討論会」が開催され、「高度化する粉体プロセスの基礎と応用の最前線」をテーマとして、KONA 賞受賞講演を含み、さまざまな材料の粉体プロセスに関わる粒子製作・加工技術の最前線について、6氏の方からご講演がありました。

最初に細川悦男理事長から、この講演討論会の開催経緯や当財団の国内外の粉体工学分野における活動等について言及されました。そ



開会式



KONA 賞贈呈式にて
(細川理事長とガディーリー教授)

の後、KONA 賞の贈呈式が行われ、奥山常務理事から、一昨年度に当財団で国際化されたKONA 賞の受賞者である英国リーズ大学(University of Leeds, UK)のガディーリー教授(Prof. Mojtaba Ghadiri)が紹介され、理事長からKONA 賞の盾が手渡されました。

この講演会では、同教授による凝集粉体流のレオメトリー研究の成果とその応用に関する講演から始まり、最近の粉体シミュレーションにおけるモデリングの現状、マイクロリアクタ

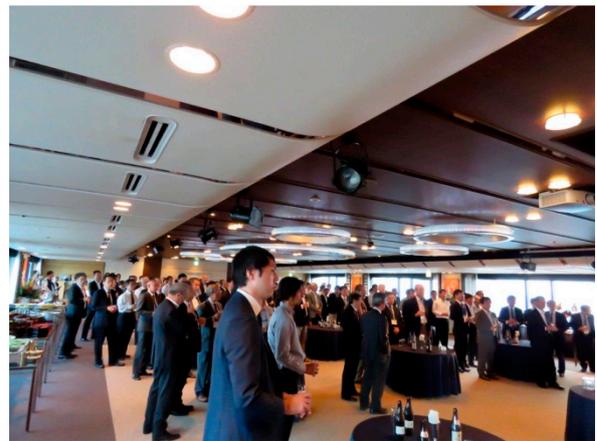
ーを利用した高機能微粒子材料の製造、グラファイト質難処理金鉱石のバイオミネラルプロセス、酵素反応を取り入れた炭酸カルシウムフィラーによる複合材料の創製技術、ならびに二次電池用の天然黒鉛粒子球形化などの粉体処理プロセスに関する新しい挑戦と今後の課題について分かりやすく説明され、それぞれの講演の後、来場者と講師の間で活発な質疑

応答が行われました。

講演討論会の後、懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中、各講師と来場者との間で有意義な交流が行われました。来場者数は 180 人近くとなり、会場は満杯状態となりました。次回の第 54 回は、東京での開催を予定しております。



講演討論会風景



懇親会風景